

グアテマラ内政・外交（2010年1月）

平成22年2月
在グアテマラ日本国大使館

1. 概要

内政面では、12日、カストレサーナCICIG代表が、ローゼンバーグ弁護士殺害事件は同弁護士自らが計画したものと結論せざるを得ないとする捜査結果を発表した。14日、政権発足後二年が経過したコロン大統領は国会において年次教書演説を行った。26日、資金洗浄容疑により米国から引き渡し要求が出されているポルティージョ元大統領がイサバル県で逮捕された。

外交面では、22日、大統領就任を前にしたロボ・ホンジュラス次期大統領が当国を訪問し、中米地域財界関係者の会合でセラヤ大統領及びホンジュラスのクーデターに関与した全員に恩赦を与える予定である旨表明したほか、コロン大統領と非公式会合を行った。12日に発生したハイチ地震の被災者支援のため、13日、当国政府は、ハイチに医師や専門家で構成される被災者・救出チームを派遣する旨発表した。

2. 内政

(1) ローゼンバーグ弁護士殺害事件に関するCICIG捜査結果

(イ) 12日、カストレサーナCICIG(グアテマラにおける無処罰問題対策国際委員会)代表は、記者会見において、ローゼンバーグ弁護士殺害事件の捜査結果として、「ローゼンバーグ弁護士自らが企てた殺害との結論に至った」旨発表した。

(ロ) CICIGの捜査によると、当時、度重なる親族との別離などにより精神的に不安定な状態にあったローゼンバーグ弁護士は、自身が恐喝被害者であるとの作り話をした上で、脅迫電話を受けていることを装うための携帯電話を購入していた。ローゼンバーグ弁護士は、最初の妻の従兄弟である企業家バルデス・パイス兄弟に、恐喝者の殺害を望んでいると持ちかけ、両人は自らのボディーガードに殺し屋を探すよう指示した。カストレサーナCICIG代表は、押収された携帯電話の通信記録等科学的捜査から、ローゼンバーグ弁護士自身が自らの殺害事件を企てた本人と結論せざるを得なかったと述べた。

(ハ) 12日午後、コロン大統領はサンドラ大統領夫人及びグスタボ・アレホス大統領秘書官を伴い、記者会見において、「我々は悲劇的な死について証拠も根拠もなく告発を受け、その後の数ヶ月間、沈黙の中で多くの忍耐をもって待ち続けたが、ついにこの犯罪の真相が明らかにされた。自分は、検察庁、CICIG及びこの犯罪の真の実行犯及び首謀者を告発し解明した内外の関係諸機関全てを評価し祝福したい。」等表明した。

(2) コロン大統領の国会に対する年次教書提出

(イ) 14日、政権が発足して二年間を経たコロン大統領は国会において年次教書演説を行い、二年目となった2009年については、世界経済危機、5月の政治危機、食糧問題が大きな試練であった等表明した。

(ロ) コロン大統領の年次教書提出に先立ち、14日午前10時、当国国会が開会し、国会の新旧執行部の交

代が行われ新執行部が成立した。新執行部構成は、アレホス議長(与党国民希望党(UNE)、再任)、エレディア第一副議長(国民大連合(GANA))、アレバロ第二副議長(グアテマラ共和戦線(FRG))、フィオン第三副議長(グアテマラ会派(BG))となった。なお、国会開会を前にして、アレホス議長の要請により、12日に発生したハイチ大地震犠牲者への哀悼を表すと共に、13日に電力問題の解決を要請し国会を訪問後殺害されたサンマルコス県の協同組合幹部エベリンダ・ラミス氏追悼のために1分間の黙祷が捧げられた。

(3) コロン政権成立後二年間に関する世論調査結果

14日付プレンサ・リブレ紙は、成立後二年を経たコロン政権に関する世論調査結果を掲載し、コロン大統領を「評価しない」とした回答者の割合は57%(歴代大統領の政権成立2年後の同回答率は、ベルシェ前大統領が75%、ポルティージョ元大統領が82%)となったほか、教育や保健分野については「改善した」との回答者が増加する一方、治安については「悪化している」との回答者が増加している(1年前と比較した治安情勢について「悪化した」の回答率は81%)等報じた。

(4) ポルティージョ元大統領の逮捕

(イ) 23日、資金洗浄疑惑により米国から当国に対し身柄引き渡し要求(2009年12月)が出されているポルティージョ元大統領(任期:2000-2003)に対する逮捕令状が発出された。24日早朝、検察、国家警察及びCICIGにより、グアテマラ・シティー及び同元大統領の出身地であるサカパ県の自宅等の数カ所ですべて同時に家宅捜索が行われたが、いずれの場所にも同元大統領の姿はなく身柄確保は失敗に終わった。当局の捜査によると、ポルティージョ元大統領は大統領在職中、学校給食向けプロジェクト(総額約27百万ケツアル)、台湾政府による無償資金協力(総額約1百万ドル)、公共事業向け資金(総額約516千ケツアル)を横領し、米国内の銀行(International Bank of Miami, Citibank)口座を経由し、フランス、スイス、ルクセンブルグなどにある同元大統領家族名義の口座に振り込んでいたと見られる。

(ロ) 26日、ベラスケス検事総長は、当国カリブ海に面するイサバル県の観光地プンタ・デ・パルマで行われた家宅捜索により、逃亡中のポルティージョ元大統領が逮捕された旨発表した。同日午後2時、ベラスケス検事総長及びカストレサーナCICIG代表は記者会見を開き、ベラスケス検事総長は、「ポルティージョ元大統領の逮捕は、国家文民警察、検察庁、海軍大西洋岸部隊及びCICIGの計52名で構成される共同作戦により達成した。」「米国政府は今後40日以内に同元大統領の身柄引き渡し手続きを行うことになる」等述べ、カストレサーナCICIG代表は、「この逮捕により、今後グアテマラにおいては誰に対しても平等に法が適用されることが示された。本日はグアテマラの司法制度の前進において意義深い日となった。」等述べた。

(5) 「治安と司法のための国民合意」履行の遅滞

21日、「治安と司法のための国民合意」(2009年4月策定)検証委員会(略称G4、人権擁護官、サンカルロス大学、カトリック教会、プロテスタント教会の4者で構成)は、同合意策定後9ヶ月が経過したにも関わらず、同合意に盛り込まれた101の履行項目の内、12項目しか履行されていないとし、三権の長に対し同合意履行に向けて一層努力するよう勧告した。G4によると、残る45項目については何らかの動きがあったが、その他の44項目については全く着手されていない状態に留まっている。

(6) 2011年大統領選挙に関する世論調査結果

14日付エル・ペリオディコ紙は、2011年大統領選挙に関し実施した世論調査結果を掲載し、ペレス・モリーナ野党愛国党(PP)前幹事長が前回調査に続き最も高い支持(20.6%)となり、これにサンドラ大統領夫人に対する支持(9.5%)が続き、一方で適当な候補者がいないとの回答者も32.6%に上った等報じた。

(7) 新型インフルエンザ(H1N1)問題

27日、保健省は同日までの新型インフルエンザ(H1N1)の感染者数等については前月から変化はなく、感染者数計1,092名、死者計18名である旨発表した。

3. 治安情勢関連等

(1) 2009年の殺人発生件数

11日付シグロ21紙は、国立法医学研究所の発表として、2009年の殺害被害者数が計5,975人に上り、2008年比で15.59%増となった旨報じた。5,975人の内、5,537人(92%)は銃器により死亡しており、地域別では、グアテマラ県における殺害被害者が2,754人(全体の46.09%)に上った。

(2) 2009年のバス運転手殺害件数

9日付プレサ・リブレ紙は、2009年に国内で殺害されたバス運転手数が2008年(計85人)比で増加し計120人に上った旨報じた。国家文民警察の捜査報告によると、首都グアテマラ市第18区及び隣接するMixco市についてはギャング集団が運転手を襲撃しており、同市第6区及び12区については麻薬取引関連グループが運転手殺害の背後にいると見られる。

(3) サンマルコス県における非常事態予備態勢宣言の延長

25日、政府は、西部サンマルコス県で発出していた非常事態予備態勢宣言の延長(期間15日間)に関する政令第3-2010号を発出した。同地では、電気料金の値上げを巡り電力供給所に対する妨害活動が続けられている。

(4) 地震の発生

18日午前9時41分、マグニチュード6.0(震源地はエルサルバドル国境に近い太平洋岸のサンタ・ロサ県ラスリス)の地震が発生した。この地震による死傷者は発生しなかった。

4. 外交

(1) ホンジュラス大統領就任式関連

(イ) 22日、当国訪問中のロボ・ホンジュラス次期大統領は、中米地域商業会議所連盟の会合に出席し講演

を行ったほか、コロン大統領との非公式会談を行った。中米地域商業会議所連盟の会合でロボ次期大統領は、大統領就任後、セラヤ大統領及び同国クーデターに関与した全員に対し恩赦を与える予定である旨発表し、「恩赦は、国家が全ての関係者を赦すことを示すものである。ホンジュラス国内に紛争があることを我々は望んでいない。」、「(セラヤ大統領の処遇について)フェルナンデス・ドミニカ共和国大統領が(セラヤ大統領に対し)同国へ行くことを提案している。その場合、国際法に基づき、賓客としてブラジル領土からドミニカ領土に移動することになる。」、「(クーデター発生後の国内情勢)十分に克服されている。」等述べた。また、同会合後、ロボ次期大統領は、「1月28日以降、ホンジュラスとの関係正常化を予定している国が数ヶ国ある。口頭で右に関する意思表示がなされている。」と述べた。コロン大統領との会談後、ロボ次期大統領は、「コロン大統領に対しては、国際社会とホンジュラスの関係正常化のために行った支援に感謝したい。」等述べた。

(ロ)27日、ロダス外相はホンジュラスを訪問し、ロボ大統領就任式典に出席したほか、セラヤ元大統領の同国ブラジル大使館からドミニカ共和国へ向けての出発に立ち会った。

(2)第4回FEALAC外相会合等へのピラ外務次官出席

(イ)16日及び17日、東京において第4回FEALAC(アジア中南米協力フォーラム)外相会合が開催され、当国からはピラ外務次官が出席した。同会合にはアジア16ヶ国及び中南米18ヶ国の計34ヶ国が参加した。

(ロ)17日には日本・中米外相会合が開催され、日本が中米統合機構(SICA)域外オブザーバーとして加盟する文書への署名が行われた。

(3)ハイチ地震発生関連

12日にハイチで発生した地震に関し、当国外務省は13日、同国において被災者の捜索・救出に当たるチームを派遣する予定である旨発表する以下の通りのコミュニケを発出した。

「グアテマラ政府は、ハイチにおける作業を即時に支援するため、医師及び専門家が参加する被災者の捜索・救出チームとして、行政官4名及び専門家24名が搭乗する一機を派遣する。」